

平成19年度 高等学校教職経験者10年研修講座
研究協議「高等学校の今日的教育課題」資料

進路指導とキャリア教育

岩手県立総合教育センター

キャリア教育の推進に向けて

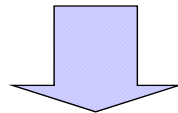


キャリア教育が求められる背景

- 就職・就業をめぐる環境の変化
産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化
- 若者の勤労観・職業観の未成熟
職業人としても基礎的資質や能力の低下
- 子ども達の生活・意識の変容
精神的・社会的自立の遅延
- 高学歴社会におけるモラトリアム傾向の拡大

「キャリア」のとらえ

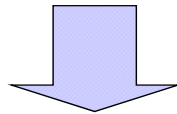
- 個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積



「個人」と「働くこと」との関係の上に成立する概念

キャリア教育とは

- 児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度を育てる教育



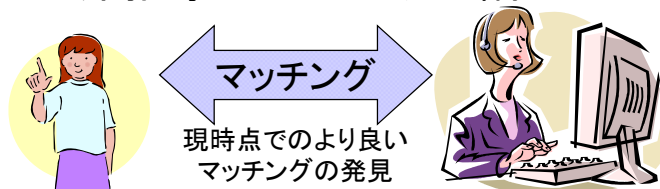
児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てる教育

基本的な考え方

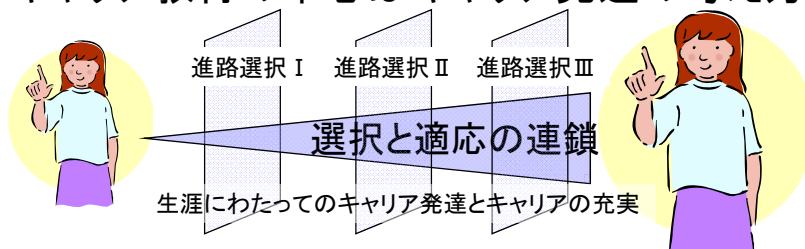
- 学校の教育活動全体を通じて、児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進が必要

従来型進路指導からキャリア教育へ

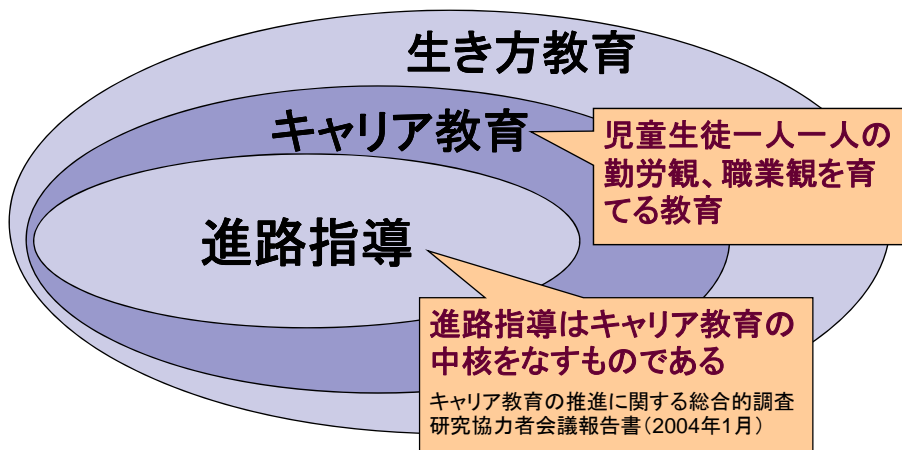
■ 従来型進路指導はマッチング理論



■ キャリア教育の中心はキャリア発達のお考え方



進路指導はキャリア教育の中核



キャリア教育の指導上の要点

- キャリア教育＝就職の斡旋指導や大学進学等の受験指導のみを目的とするものではなく、生徒の生涯にわたるキャリア形成の能力を身に付けさせるための進路指導

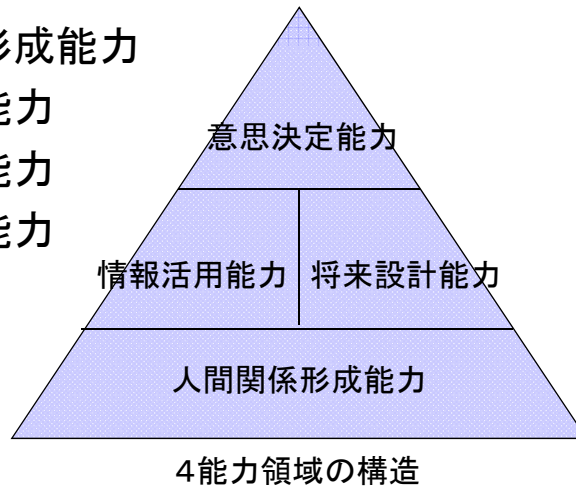
- ① キャリア発達の考え方を基本にすること
- ② 生徒の年齢や発達段階に応じた職業観や勤労観を育成すること
- ③ 職業や進路に関する情報収集や分析能力を高めること
- ④ 職業や進路に関する体験や調査・探求等を通じて実際の職業観を育成すること
- ⑤ 生徒の生涯にわたるキャリア形成の基礎能力を身に付けさせること

キャリア発達課題

- 小学校
進路の探求・選択にかかる基盤形成の時期
- 中学校
現実的探索と暫定的選択の時期
- 高等学校
現実的探索・試行と社会的移行準備の時期

キャリア教育で育みたい能力

- 人間関係形成能力
- 情報活用能力
- 将来設計能力
- 意思決定能力



キャリア教育のねらい

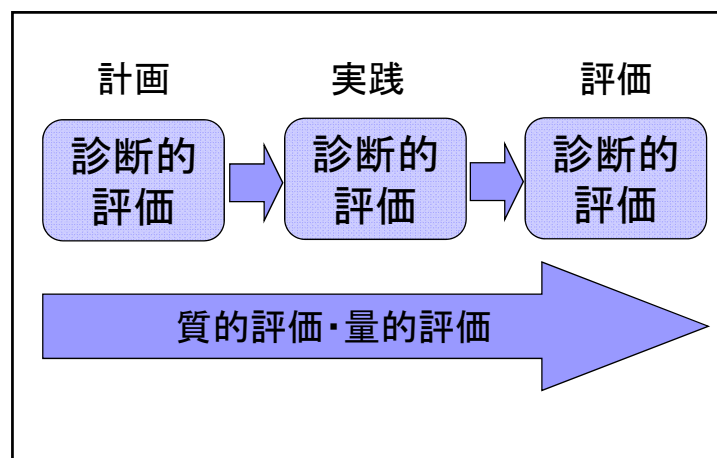
- 「働くこと」への関心・意欲の高揚と学習意欲の向上
- 児童生徒一人一人のキャリア発達への支援
- 社会人・職業人としての資質・能力の向上
- 自立意識の涵養と豊かな人間性の育成

キャリア教育の進め方

- すべての教育活動を通して進める
- 組織的・計画的・系統的に進める
- 個に応じた進める
- 連携・協力して進める
- 実践的・体験的な学習活動を通して進める

キャリア教育実践のための手順

- 計画
- 実施
- 評価
- 改善



キャリア教育推進の条件整備

- キャリア教育推進の学校内の組織、体制づくり
- 教員の資質向上と専門的能力を有する教員の養成
- 学校外の教育資源活用にかかるシステムづくり
- 保護者との連携の推進
- 関係機関等の連携と社会全体の理解の促進

これまでの自分を振り返ってみましょう

小学校～高等学校、大学～現職までの自分を振り返ったとき、どのような場面で勤労観や職業観が育まれていったと考えますか？

また、小・中・高等学校時代に、どんな夢を描き、その実現のためにどのようなことに取り組んできたか、また、現在の職業を選択するきっかけとなった出会いや出来事は？

たとえば・・・

小学校の頃にいただいていた夢・憧れ・希望は？

中学校の頃、理想と現実のギャップに悩んだことは？また、それを乗り越えさせたものは？

高等学校の頃、描いていた将来の自分と今の自分を比較すると？

高等学校学習指導要領におけるキャリア教育関連事項

第1章 総則	第1款 教育課程編成の一般方針	4 学校においては、地域や学校の実態等に応じて、就業やボランティアにかかわる体験的な学習の指導を適切に行うようにし、勤労の尊さや創造することの喜びを体得させ、望ましい勤労観、職業観の育成や社会奉仕の精神の涵養に資するものとする。
	第2款 各教科・科目及び 単位数等	5 学校設定教科 (2) 学校においては、学校設定教科に関する科目として「産業社会と人間」を設けることができる。この科目の目標、内容、単位数等を各学校において定めるに当たっては、産業社会における自己の在り方生き方について考えさせ、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養うとともに、生徒の主体的な各教科・科目の選択に資するよう、就業体験等の体験的な学習や調査・研究などを通して、次のような事項について指導することに配慮するものとする。 ア 社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度及び望ましい勤労観、職業観の育成 イ 我が国の産業の発展とそれがもたらした社会の変化についての考察 ウ 自己の将来の生き方や進路についての考察及び各教科・科目の履修計画の作成
	第4款 総合的な学習の時間	2 総合的な学習の時間においては、次のようなねらいをもって指導を行うものとする。 (2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにすること。 3 各学校においては、上記2に示すねらいを踏まえ、地域や学校の特色、生徒の特性等に応じ、例えば、次のような学習活動などを行うものとする。 イ 生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図る学習活動 ウ 自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動 5 総合的な学習の時間の学習活動を行うに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1) 自然体験やボランティア活動、就業体験などの社会体験、観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れること。
	第6款 教育課程の編成・ 実施に当たって配 慮すべき事項	4 職業教育に関して配慮すべき事項 (1) 普通科においては、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、必要に応じて、適切な職業に関する各教科・科目の履修の機会の確保について配慮するものとする。 (3) 学校においては、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、就業体験の機会の確保について配慮するものとする。 (4) 職業に関する各教科・科目については、次の事項に配慮するものとする。 ア 職業に関する各教科・科目については、就業体験をもって実習に替えることができること。この場合、就業体験は、その各教科・科目の内容に直接関係があり、かつ、その一部としてあらかじめ計画されるものであることを要すること。 5 教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項 以上のほか、次の事項について配慮するものとする。 (2) 学校の教育活動全体を通じて、個々の生徒の特性等の的確な把握に努め、その伸長を図ること。また、生徒が適切な各教科・科目や類型を選択し学校やホームルームでの生活によりよく適応するとともに、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、ガイダンスの機能の充実を図ること。 (4) 生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行うこと。

(続き)

第4章 特別活動	第2 内容	<p>A ホームルーム活動</p> <p>ホームルーム活動においては、学校における生徒の基礎的な生活集団として編成したホームルームを単位として、ホームルームや学校の生活への適応を図るとともに、その充実と向上、生徒が当面する諸課題への対応及び健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと。</p> <p>(2) 個人及び社会の一員としての在り方生き方，健康や安全に関すること。</p> <p>ア 青年期の悩みや課題とその解決，自己及び他者の個性の理解と尊重，社会生活における役割の自覚と自己責任，男女相互の理解と協力，コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立，ボランティア活動の意義の理解，国際理解と国際交流など</p> <p>イ 心身の健康と健全な生活態度や習慣の確立，生命の尊重と安全な生活態度や習慣の確立など</p> <p>(3) 学業生活の充実，将来の生き方と進路の適切な選択決定に関すること。</p> <p>学ぶことの意義の理解，主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用，教科・科目の適切な選択，進路適性の理解と進路情報の活用，望ましい職業観・勤労観の確立，主体的な進路の選択決定と将来設計など。</p> <p>C 学校行事</p> <p>学校行事においては、全校若しくは学年又はそれらに準ずる集団を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。</p> <p>(5) 勤労生産・奉仕の行事</p> <p>勤労の尊さや創造することの喜びを体得し，職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験が得られるようにするとともに，ボランティア活動など社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと。</p>
	第3 指導計画の作成と 内容の取扱い	<p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 学校の創意工夫を生かすとともに、学校の実態や生徒の発達段階及び特性等を考慮し、教師の適切な指導の下に、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにすること。その際、ボランティア活動や、就業体験など勤労にかかわる体験的な活動の機会をできるだけ取り入れるとともに、家庭や地域の人々との連携，社会教育施設等の活用などを工夫すること。</p> <p>(2) 生徒指導の機能を十分に生かすとともに、教育相談（進路相談を含む。）についても、生徒の家庭との連絡を密にし、適切に実施できるようにすること。</p> <p>(3) 学校生活への適応や人間関係の形成，教科・科目や進路の選択などの指導に当たっては，ガイダンスの機能を充実するようホームルーム活動等の指導を工夫すること。</p>

各教科での記述は省略

キャリア教育Q&A

岩手県教育委員会

Q1 「キャリア教育」とは、どのような教育 なのですか。

「キャリア教育」とは、児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度を育てる教育です。端的には、「児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てる教育」です。

キャリア教育では、児童生徒一人一人に望ましい職業観・勤労観及び職業に対する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てることであり、教育活動全体を通じ、小学校段階から発達段階に応じて実施する必要があります。

Q2 今、なぜ「キャリア教育」が求められているのですか。

今日、経済情勢や産業・経済及び雇用の構造的変化等に伴い、就職・就業をめぐる環境が激変しています。

若者の勤労観・職業観の未熟さ、職業人としての基礎的資質・能力の低下、精神的・社会的自立の遅れ、人間関係を築くことができない、進路を選ぼうとしない子どもたちの増加が指摘されています。さらに、モラトリアム傾向が強くなり、進学も就職もしようとしなかったり、進路意識や目的意識が希薄なまま「とりあえず」進学したりする若者の増加も指摘されています。

このような課題を背景に、キャリア教育を通して、児童生徒が社会を力強く生きていくために必要な資質や能力、すなわち「生きる力」を身に付けることが期待されています。

Q3 これまでの「進路指導」とどう違うのですか。

進路選択は本来「生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を身に付けさせることができるよう、指導・援助すること」とされています。この進路指導の定義・概念は、キャリア教育と大きな差異はなく、進路指導はキャリア教育の中核をなすものです。

ただこれまでの進路指導は、いわゆる「出口指導」にとどまる傾向も見受けられました。キャリア教育は、就職の斡旋指導や大学進学等の受験指導のみを目的とするものではなく、児童生徒の生涯にわたるキャリア形成の能力を身に付けさせるための進路指導です。そして、児童生徒一人一人の発達を支援するという観点や、各活動の関連性や系統性を意識しつつ、それぞれの活動を、具体的に評価できるところまで細分化、計画化して取り組んでいくことが必要です。

Q4 キャリア教育では、児童生徒にどんな力を育ていけばよいのですか。

児童生徒の各発達段階で取り組まなければならない発達課題があります。具体的に育てたい諸能力は「人間関係能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意志決定能力」の4つがあります。これらの能力を育成するために、教育活動全体を通じて、児童生徒の発達段階に応じ組織的・系統的に取り組んでいく必要があります。

Q5 日々の教育活動に追われ、キャリア教育に取り組む余裕がないのですが。

キャリア教育では、子どもたち自身が自己のよさや可能性に気づき、それぞれの夢や希望を持ち、その実現に向けて努力する過程を指導・支援していくことが大切です。

キャリア教育は、決して「新たな教育活動」として位置づけられたものではなく、これまでの学校教育で取り組んできた学習や活動を、キャリア教育の視点から捉え直し、実践していくものです。

Q6 家庭・地域・企業・関係機関との連携は、なぜ重要なのですか。

家庭は、子どもたちの成長・発達を支える最も重要な場であり、勤労観や職業観を育んでいく上でも同様です。

職場体験やインターンシップ等の体験活動をより円滑に実施していくためには、企業や関係機関等が一体となって取り組むことが大切です。

このように、キャリア教育を十全に展開するためには、家庭・地域・企業・関係機関等との連携を積極的に進めることが大切です。

Q7 キャリア教育が不登校、中途退学者、いじめの減少や、学力向上・進路実現に効果があるといわれるのはどうしてですか。

キャリア教育において、子どもたちは、他者の思いや苦勞、誇りや心の痛みなどを自らのものにすることによって豊かな人間性を培うとともに、自分自身への自信や有用感を持つことができます。さらに、学ぶことや働くことへの関心や意欲、進んで課題を見つけそれを追求していく力とともに、集団生活に必要な規範意識やマナー、人間関係を築く力やコミュニケーション能力など、幅広い能力が育成されることにより、不登校等の減少や学力向上・進路実現の効果が期待されます。
